

## 報 告

## ロンドンパラリンピック

株式会社洛北義肢 坂本 明信

## 1. はじめに

2012年8月29日から9月9日にロンドンパラリンピックが開催され、オットボック社のテクニカル修理チームに参加した。その経験について報告する。

## 2. ロンドンパラリンピック

パラリンピックの起源は、障がい者スポーツの父とされる Sir Ludwig Guttman 氏が 1948 年にイギリスの Stoke Mandeville 病院にて開催された障がい者競技大会である<sup>1)</sup>。それから半世紀以上の時を経てイギリスに戻ってきた。

本大会は、164 カ国から 4237 名（男性 2736 名、女性 1501 名）のアスリートが集い 251 の世界記録と 314 のパラリンピック記録が生まれた。270 万人の観客がアスリート達の活躍を実際に目にし、テレビを通じてイギリス国内で 3990 万人がパラリンピックを観戦した。そして 7 万人のボランティアが本大会を支えたこと、閉会のスピーチで IPC 会長の Sir Philip Craven 氏が「今までで最高のパラリンピック」と賞賛をしていたこともここに記しておきたい<sup>2)</sup>。

## 3. オットボックテクニカル修理チーム

オットボックテクニカル修理チームは、車いす、義肢、装具の製作や修理をし選手たちが安心して競技や日常生活を送れる無償サポートを提供する歴史あるチームである。

修理チームは、18 カ国から 80 名の義肢装具士、車いす技術者、溶接技術者から構成され、選手村内のメインワークショップと競技会場内に設営されたサテライトワークショップにてサービスを提供した。

本大会では、125 カ国 1983 名の競技者に対して修理サービスを提供し 2740 件（車いす 2165 件、義肢 396 件、装具 179 件）の修理を行なった<sup>3)</sup>。この数字は過去最高とのことである。

## 4. テクニカル修理チームの一員として

私が担当したワークショップについて書く。

## 4.1 Verodome

自転車競技会場である Verodome (図 1) では、修理ブースが競技レーンの内側にあったため凄いい迫力で試合を見られ、また各実際の自転車競技に使用されるアダプテーションも拝見できた (図 2)。



図 1 Verodome (自転車競技会場)



図 2 アダプテーション大腿ソケットが連結された自転車

## 4.2 Greenwich Park Equestrian

世界標準時で有名であったグリニッジ天文台の近くの乗馬会場では、隣は馬具職人のワークショップであった。もともとイギリスの義肢装具士は彼らと甲冑職人が起源と言われている。実際に鞍を製作する時は我々と同様に石膏で型を取りカーボンファイバー

株式会社洛北義肢

〒 603-8487

京都府京都市北区大北山原谷乾町 22-16

で成型しそのうえから皮革などを張ったりするそうである。実際に使用する工具類(図3)も拝見し自らの起源を感じることができた。



図3 Saddler の工具(前方)と鞍(後方)

#### 4.3 Excel

フェンシングなど計6種目が行なわれるたいへん巨大で活気があった会場であった。ここでは、車いすを専門とするオットボック社の中島浩貴氏と御一緒に色々和薫陶を賜った。またブースの隣が、フェンシングのウォームアップエリアで、香港のチームとお話させていただく機会もあった(図4)。メダルも持たせてもらい、これが4年の重みだと思ふとたいへん重く感じた。



図4 修理ブース裏にてオットボック社の中島氏(中央白いシャツ)と香港フェンシングチーム

#### 4.4 選手村メインワークショップ

選手村内に併設されたメインワークショップ(図5)は今まで紹介したサテライトと違いたいへん忙しいワークショップだった。日常生活で使用する車いすの



図5 ワークショップ内の雰囲気

修理がたいへん多くほとんどパンク修理やタイヤ交換の仕事が多かった。

#### 5. パラリンピックの感想

イギリス中を騒がせた義足ブレード長のゴタゴタを見ると、今後、工学が関連する義肢、装具、車椅子そして競技用の道具など、これらを進化させるべきかいか、今後障がい者スポーツに関わる全ての人々が葛藤を感じると感じた。またさらなる商業化の波も今後のパラリンピックを変えていくかもしれない。

将来的な変貌を感じながらも、パラリンピックは4年に1度の障がい者アスリートが参加する素晴らしい祭典だと感じた。幸せそうに日々を過ごす彼らを見ただけでパラリンピックの素晴らしさを感じることが出来た。

#### 6. 最後に

パラリンピックの経験は筆者の文才では全てをお伝えすることはできないのが残念であるが、イギリス全体の熱気は、大会のテーマである“Inspire a generation”そのものであった。最後にこの場をお借りして、このような機会を提供して下さったオットボック社の皆様、そして長い期間にもかかわらず快く送り出してくれた同僚に感謝を致します。

#### 【参考文献】

- 1) <http://www.abilityvability.co.uk/files/factsheets/FS3%20-%20The%20Stoke%20Mandeville%20Games%201948.pdf>
- 2) <http://www.paralympic.org/paralympic-games/london-2012>
- 3) [http://www.paralympics.ottobock.jp/pdf/london\\_paralympic\\_summary.pdf](http://www.paralympics.ottobock.jp/pdf/london_paralympic_summary.pdf)